

情報公開文書

研究の名称	胆管狭窄良悪性鑑別診断における経口胆道鏡下生検と透視下生検の比較検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 第三内科 安田一朗
研究の概要	<p>【研究対象者】 胆管狭窄例に対して当院で透視下生検及び胆道鏡下生検の両方を行った症例を対象としています。</p> <p>【研究の目的・意義】 近年、胆管狭窄に対して良悪性鑑別目的に経口胆道鏡（POCS）下生検が診断方法として選択されるようになっております。既報では感度 88%、特異度 98%と有用性が報告されていますが、検体量不足により診断が困難な症例や実臨床においてしばしば透視下生検の方が有用であると経験するときもあります。そこで、当施設での胆管狭窄の良悪性鑑別診断における透視下生検と POCS 下生検の診断能を比較検討することで、それぞれの有用性や問題点を抽出し、胆管狭窄症例に対する診断精度の向上を目的としています。</p> <p>【研究の方法】 本研究は 2018 年 6 月 1 日から観察期間内（研究実施予定の 2026 年 8 月 31 日）に胆管狭窄例に対して当院で透視下生検及び胆道鏡下生検の両方を行った症例を対象として、カルテなどから臨床情報を収集し解析を行います。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 この研究の解析結果は、専門学会への発表、論文化を通じ公表されます。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	本研究で用いるデータの管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。また対応表は研究責任者並びに分担者が保管・管理します。また、本研究で使用するデータ（病理結果、治療方針、最終診断）はカルテ上に存在する検査画像やレポート、診療記録等を使用します。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者 (研究主機関における研究責任者氏名)	内科学（第三）・教授・安田一朗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7301 FAX 076-434-5027</p>

E-mail hkawa82@med.u-toyama.ac.jp

担当者所属・氏名 富山大学附属病院 第三内科 大学院医員 川中滉貴